

## 4. がん看護専門看護師としての活動

製鉄記念広畑病院　がん相談支援センター  
がん看護専門看護師　松本仁美

専門看護師制度は、「複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を社会に送り出すことにより、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかることを目的」とし1996年にがん看護専門看護師の認定が開始されました。

専門看護師は専門分野において、6つの役割があります。6つの役割とは、①個人、家族及び集団に対して卓越した看護実践をする、②看護者を含むケア提供者に対しコンサルテーションを行う、③必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネートを行う、④個人、家族及び集団の権利を守るために、倫理的な問題や葛藤の解決をはかる、⑤看護者に対しケアを向上させるため教育的役割を果たす、⑥専門知識及び技術の向上並びに開発をはかるために実践の場における研究活動を行うことです。

がん看護専門看護師は514名（2014年1月）。がん看護専門看護師の所属機関はがん専門病院、一般病院、訪問看護ステーション、大学など様々です。それぞれの所属機関は社会から期待されている役割が異なるのと同様、専門看護師の役職やキャリアによっても期待される活動や成果は異なります。そのため、がん看護専門看護師は、がん患者・家族、がん看護に携わる人々を対象に、問題解決や能力開発・能力維持・向上のために、様々な活動をしています。そして、社会の変化や対象の多様性ととともにさらに活動は多様化することが求められます。

ここではがん専門看護師としての活動と題しておりますが、一人の一般病院のがん看護専門看護師の活動として私自身の活動を紹介させていただきます。その具体的な活動を通じて、がん患者・家族に対して、看護の力、看護師の役割にどのような可能性があるのかを考える機会になればと思います。また、がん患者会という集団を対象として、患者とともに成長することを伝えたいと思います。そして、がん患者に携わる看護師へのかかわりにおける成果と大切にしている考え方を伝えたいと思います。

このシンポジウムを通じて、がん看護専門看護師ががん患者・家族をケアするために、患者・家族の言葉に耳を傾け、目の前の現象をどのようにとらえて、アセスメントして、様々な看護ケアの方法の選択肢のなかから方法を決定して、他の医療従事者や看護スタッフとともに協働しているかを知っていただき、『がん看護専門看護師と働きたい！』『がん看護をしてみたい！』と感じていただきたいと思います。そして、がん患者・家族、看護スタッフとともに、成長していくために、必要な知識・技術の向上と能力が発揮しやすい体制整備における課題への取り組みに対して、異なる立場のご意見を受けることで、新たな課題や課題解決の方略が見いだせるのではないかと考えています。